

## 「卒 FIT」

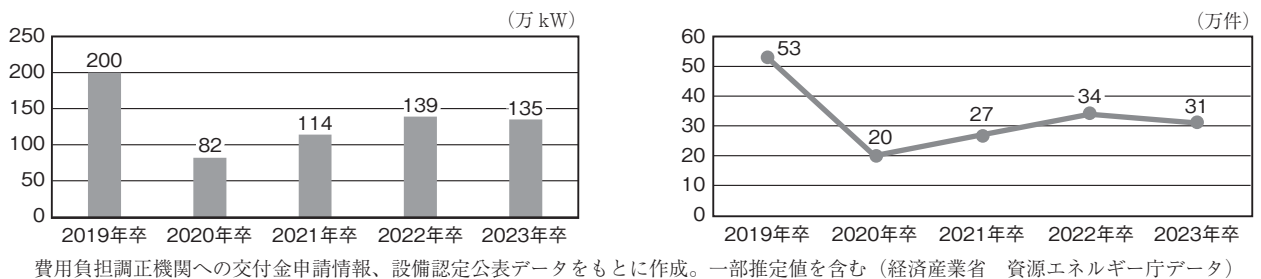
住宅用太陽光発電を設置した家庭において、今もっとも話題となっていることが「卒 FIT」です。今回はこの内容について説明いたします。

### 1. 「卒 FIT」とは

「卒 FIT」とは、※ FIT（固定価格買取制度）が定める売電期間を終えることです。住宅用太陽光発電の売電期間は10年間でした。2019年は、FIT の前身となる「余剰電力買取制度」がスタートしてからちょうど10年にあたり、FIT 黎明期に太陽光発電を導入した人たちが、10年間の固定価格買取期間を終える年です。対象となる世帯は、2019年だけでも約53万世帯とされています。そのため11年目以降の売電について大きな問題となっています。

※ FIT：Feed in Tariff を略したもので、再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定期間中は同じ価格で買い取ることを国が約束する制度です。2009年当時に太陽光発電パネルを設置した方の売電価格は、**48円/kWh**（2019年度24円/kWh）と高額で買い取りを行っていました。

【図1】 FIT を卒業する住宅用太陽光発電の推移（年別）



### 2. 「卒 FIT」後の選択肢

「卒 FIT」を迎える家庭の主な対策として、大きく分けると3つの選択肢があります。

#### (1) 現在の電力会社に売電する。

現在売電している旧一般電気事業者とそのまま売電契約を結ぶ。

#### (2) 新たな電力会社に売電する。

新たな電力会社と契約して売電する。「卒 FIT」後の余剰電力買い取りに名乗りを上げている会社が増えており、買い取り価格は**8円～11円/kWh**程度で提示されています。買い取り業者については、経済産業省資源エネルギー庁のホームページにて随時更新されています。

【図2】 買い取りサービス大手電力会社の価格内容

電力会社	東北電力	東京電力 EP	北陸電力
プラン名	ツナガルでんき	再エネ買取標準プラン	かんたん固定単価プラン
買取価格	9円/kWh	8.5円/kWh	8円/kWh

#### (3) 完全自家消費する。

「卒 FIT」後の買い取り価格は、電力会社から電力を購入する価格より安くなる見込みです。従って、これからは売電収入を得るのではなく、蓄電池等を導入して発電した電力を完全自家消費することで電気代を節約するという選択肢です。災害時や停電時にも備えられるというメリットもあります。ただ、完全自家消費の導入には資金が必要となるため、費用対効果を考える必要があります。

### 3. まとめ

「卒 FIT」後の選択肢は複数ありますので、この機会に自分に合った選択肢をご検討ください。

なお、「FIT」の売電期間が終了したにもかかわらず、蓄電池も導入しない、大手電力へも売電しない、新電力にも売電しない等何も手続きしない場合は、余剰電力はそのまま大手電力が**無料**で引き取ることとなります。

## 閑話ひとつ

- ▶今年もあと1カ月になりました。2019年を振り返ると、おめでたいニュースと悪いニュースが入り混じった年でした。
- ▶おめでたいニュースとしては、新天皇の即位がありました。5月1日に元号が平成から令和に改元され、また10月22日の「即位礼正殿の儀」では、世界191の国と国際機関などの代表が祝福のために来日しました。
- ▶悪いニュースとしては、台風等による被害がありました。特に10月に発生した台風19号それに続く大雨は、今までの想定を超える規模で、福島県を含め各地に大きな被害をもたらしました。
- ▶さて来年は、東京オリンピックが開催され、福島県から聖火が出発し全国をめぐる予定です。また、県内でも野球とソフトボール競技が行われ、世界中よりたくさんの人々が来県されます。この機会に是非とも震災から復活した福島県を見て頂き、福島県の食材が問題ないこと、福島県が素晴らしいところであることを知っていただけることを期待して止みません。それでは皆様、来年が良いお年でありますように。  
(YN)